

卓 話

平成 20 年 11 月 25 日

地区大会を振り返って

村山好胤会長

由良ガバナーの地区大会が、ロータリアンの経済的負担と時間的負担、地球環境への負荷を極力軽減して行なわれる改革的なものとのことを基に、活動方針「環境」に的を絞り、公共交通機関での参加を呼びかけられる画期的な企画で開催され、「ロータリアンにとっての環境問題」をテ



ーマにパネルディスカッションが行なわれました。現在の地球上における二酸化炭素による地球温暖化は、地球上のすべての生き物に影響を与えています。人類がこのわずかな期間に異常な環境をつくり上げてきたのも事実です。この問題は、企業ではできる限りの身近なことから始められているとのことでした。ある運送会社においては、燃料の給油はタンクの 80%、交差点における停止時においては、エンジンストップとのことでした。電気の使用も注意し、環境に配慮した運用を当クラブのメンバーの企業においても大多数企業が行なっておるとのことでした。これを機会に当クラブが環境問題に今まで以上に関心を持って行動するには、今後、何を重点においていくのか、会員の皆さんの意見をお聞きし、次年度の活動方針の参考をお聞きしたところ「たずさえの森の事業」に一極に集中して行なうとの意見でまとめ、次年度への申し送りとします。現在の森林のおかれている状況は非常に厳しいものがあります。たずさえの森の事業を通じて岐阜市内の子どもたちが、森や木に親しみ、森林の大切さを知り、循環する資源の「木」に対する愛着を持つ啓蒙活動に取り組む事業に積極的に参加することが、我がクラブにできる事業であると確信した次第です。また、岐阜クラブにおけるエコ運動の一環である『エコボックス制度』の採用を当クラブも次年度に採用してくださるよう要望します。